



## 秋の夜長に

今年の秋はいつになく短いですね。いつまでも暑さが続くかと思えば、一転して急に冬の寒さが訪れる、そんな不安定な気候の今日この頃。「勉強の秋」「スポーツの秋」「芸術の秋」と、何をするにも良い季節である秋を感じられる日が少ないのは何ともさみしいものです。

とはいえ、確実に日が落ちるのが早くなり夜が長くなってきました。読書をしたり、じっくりものを考えたり、といった精神的活動にも時間を使いたい時期です。進路について考えることは当然として、今回は読書を皆さんに進めたいと思います。

中高生の活字離れについては、ずいぶん前から指摘されています。「高校生にふさわしく、文学作品を読みましよう」と言いたいところですが、流行の娯楽作品にも読み応えのあるものはたくさんありますから、ぜひ活字にふれてください。せっかく「朝の読書」にも取り組んでいることですし、まずは試験勉強の合間にも「自宅での読書」の時間を味わってみてください。

また、一歩進んだところでは「創作」という分野もあります。

例えば最も短い形式の表現として「俳句」（あるいは季語を必要としない「川柳」も）があげられます。誰もが授業の中で一度は「五・七・五」文字をひねり出したことがありますよね。

校長先生の句集『ローカル線』の中から冬の句を紹介します（俳句では11月は既に冬）。

セーターの胸誇らしく髪を梳く

\*編集部注：誇らしげに胸を張り、手櫛で髪をすく女子生徒の若々しい姿を表現した句ですね

身近な先生方の中にもこうした活動をしていらっしゃる方がいらっしゃいます。

いきなり上手にはできずとも、気の向いたときに文化的活動に触れてみる、というのもいいかもしれませんね。

